

学校 教育だより

習志野市教育委員会



<http://www.city.narashino.lg.jp/kosodate/kyoiku/gakkyodayori.html>

習志野市鷺沼 2-1-1

電話 047-451-1151 (代表)

平成30年 1月 5日発行 No.90



極 (きわみ)

習志野市教育委員会教育長 植松榮人



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

皆様におかれましては、心も新たに、輝かしい新年を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

今年の干支は「戌(いぬ)」です。犬は、忠犬ハチ公の物語にもあるように「とても忠誠心が強い」と言われています。皆様は、ハチ公のように強い心を持ち続けているのでしょうか。教師という仕事を目指した時に、心に誓ったことがあると思います。初めて教壇に立った時の気持ちを大切にしたい者ものです。この新しい年(平成30年)のスタートに、今一度、自分の教師としての原点に立ち返る必要があります。「初心忘るべからず」です。

昨年、公開研究会や学校訪問等で多くの授業を参観させていただきました。一斉授業において、先生と子どもたちが真剣に学習に取り組んでいることが感じられる授業がいくつかありました。逆に、指導と評価が一体化されていない授業も見られました。若い先生方に、特に伝えたいことは、この教師という仕事は、「授業が命である」「授業がすべてである」ということです。授業には、板書、発問、指名計画、流れ、声の抑揚・強弱、ICTの利活用など様々な構成要素があります。若い先生方には、これらのことを1つでも2つでもしっかり学んでもらいたいと思っています。

さて、今年のキーワードを「極(きわみ)」としました。昨年は「流」でした。これは、「一流を目指してほしい」という願いから決めました。今年の「極」は、辞書には、「きわまるどころ 物の事の行きつくところ 極限 限り きわまり」とありますが、私は、一流を目指した者が、次に目指していかなければならないものと考えています。

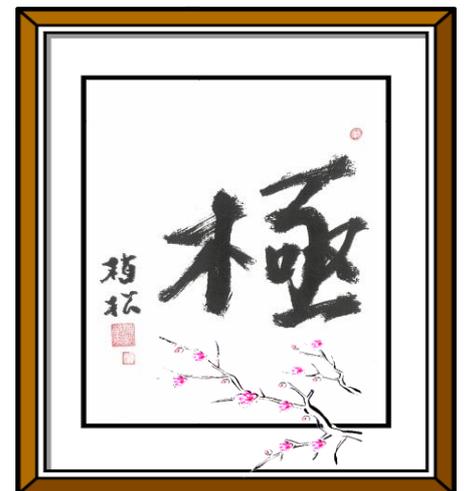
「今年、何の『極』を目指しますか。」

学校においては、ぜひ、それぞれの立場での「極」を目指していただきたいと思っています。

現在の学校の状況・現在の自分の姿に満足している人はいないでしょうか。現状に満足をしているなら、絶対に進歩は見られません。さらにより良くしていかなければなりません。「極」を目指して、一歩前に進む必要があります。

教育の世界には「恩師」という言葉があります。子どもたちのことを何より第一に考えて、日々の教育活動に取り組む、「極」を目指した人だからこそ言われる言葉です。ぜひ、子どもたちから「恩師」と呼ばれるような教師を目指さなければなりません。

今年も、習志野の子どもたちが夢や希望をもち、そして語り合い、健やかに成長できるように、学校、教育委員会、地域が連携し、保護者の期待に応えられるように教育活動に取り組んでまいります。



- P 1…新年巻頭言
植松榮人教育長「極(きわみ)」
- P 2…新たな出発 ~周年行事~
- P 3…永年勤続表彰 感謝状贈呈式
初期層教職員研修「実践報告発表会」
- P 4…中学生が守っていききたい基本ルール
- P 5…森の音楽会 オリンピック選手とミニ集会
- P 6…習志野高等学校 家庭科の授業の取り組み
特連の合同宿泊学習 編集後記

新たな出発～周年行事～

平成29年度は、第一中、第五中、第六中、習志野高校で周年行事が行われました。どの学校も独自の取り組みが見られ、盛大に挙行されました。この行事を節目として、さらに大きな飛躍を期待しています。

平成30年度は、第二中、第四中、東習志野小、袖ヶ浦東小で周年行事が行われる予定です。

11月18日（土）に、文化ホールにて70周年記念式典が開催されました。式典は2部構成で、第2部の生徒発表では、「温故知新」をテーマにした70年を振り返る映像、生徒会長による抱負、3年生ソリストによる合唱、管弦楽部の「ラヴァルス」「威風堂々」を披露しました。最後の全校合唱「大地讃頌」では、文化ホールに一中ならではの美しく豊かな歌声を響かせることができました。「夢・希望 輝け 一中」を合言葉に、地域に「勇気と希望」の光を発信する灯台となることを誓いました。

♪♪ 袖が満～♪♪ 第一中



♪♪ 大らかに～♪♪ 第五中



10月28日（土）に、体育館で40周年記念式典が開催されました。田久保実行委員長は「夢や希望をもってベストを尽くして」と激励しました。校長先生は卒業生・地域・保護者の尽力に感謝しつつ、今年の五中のスローガンである「飛躍」を訴えました。生徒会の発表では「五中40年の歩み」を思い出深く振り返りつつ、“時を守り、場を清め、礼を尽くし、一致団結”という生徒会宣言を行うなど生徒たちも五中の伝統の重みを感じながら参加していました。全校合唱の「大地讃頌」は、体育館が震えるほどのとてもすばらしい歌声でした。

11月11日（土）に、創立40周年記念祭・記念式典が開催されました。午前中は、授業参観・作品展示会・私立高校進学相談会・記念ショップ・記念イベントなどが行われました。

また、PTA主催のバナナのキャンペーンでは、生徒も職員も一緒になって記念撮影をして、おいしいバナナを食べ、たいへん盛り上がりました。午後からの式典では、第1部は厳粛な雰囲気の中で、第2部の生徒発表では、六中生の活力が披露することができました。みんなの心に残る1日になりました。

♪♪ 若草萌えて～♪♪ 第六中



♪♪ 君 知るや～♪♪ 習志野高校



11月5日（日）に、60回目の創立記念日を迎えました。11月7日（火）には、市長さんをはじめ多くの御来賓に出席を賜り、文化ホールにて記念式典が開催されました。創立60周年は人間にたとえると還暦を迎えたこととなります。還暦は十二支が一回りすることで「再び赤ん坊に戻る」という意味合いに使われたりもします。

習志野高校は、これまで学校創設に関わった方々や多くの先輩方が築き上げてきた伝統の継承と共に、初心に戻り『習志野の王冠』として輝き続けるよう努力してまいります。

永年勤続表彰感謝状贈呈式

葛南教育事務所管内永年勤続者へ感謝状が贈呈されました。11名の先生方の長年に亘る努力と功績に敬意を表するとともに、栄えある日を迎えられたことをお祝い申し上げます。これからも習志野の子ども達のため、また後進の鑑として、本市の教育を支えてくださることをお願い申し上げます。(敬称略)



代表挨拶 秋津小学校
校長 井上 聡子 先生

実花小学校	校長	長島 秀一	東習志野小学校	教諭	渡邊 幸子
秋津小学校	校長	井上 聡子	実花小学校	教諭	神谷 亜紀
第四中学校	校長	天田 正弘	第二中学校	教諭	山崎 晃
実籾小学校	教頭	横平 佳子	第三中学校	教諭	木村 道晴
藤崎小学校	教頭	尾崎 秀雄	香澄小学校	養護教諭	永嶋 せなみ
袖ヶ浦西小学校	教諭	大崎 直美			

初期層教職員研修「実践報告発表会」

11月17日(金) 事務職員・養護教諭・栄養職員による実践報告発表会が市総合教育センターで行われました。これは初期層教職員が各自課題をもって職務に励んだ成果と課題を発表する初期層教職員研修の一環です。

植松教育長からは「主事・養護教諭・栄養職員は、縁の下の力持ちである」「主事・養護教諭・栄養職員が、明るく元気でなければ学校はよくなる」と8名の初期層教職員を激励されました。

研修生達のどの発表も、新しい取り組みにチャレンジする精神とどのようにしたら先生方や子ども達の学校生活がより豊かになるかという創意工夫に満ちあふれるものでした。研修生達は互いの発表に学び、切磋琢磨し合うことができました。

香澄小学校 石橋 優里花 主事は「課題に取り組み仕事を進めやすくなりました。また、他の方の発表を聞き、自分の知らない業務への理解が深まりました」と振り返っていました。



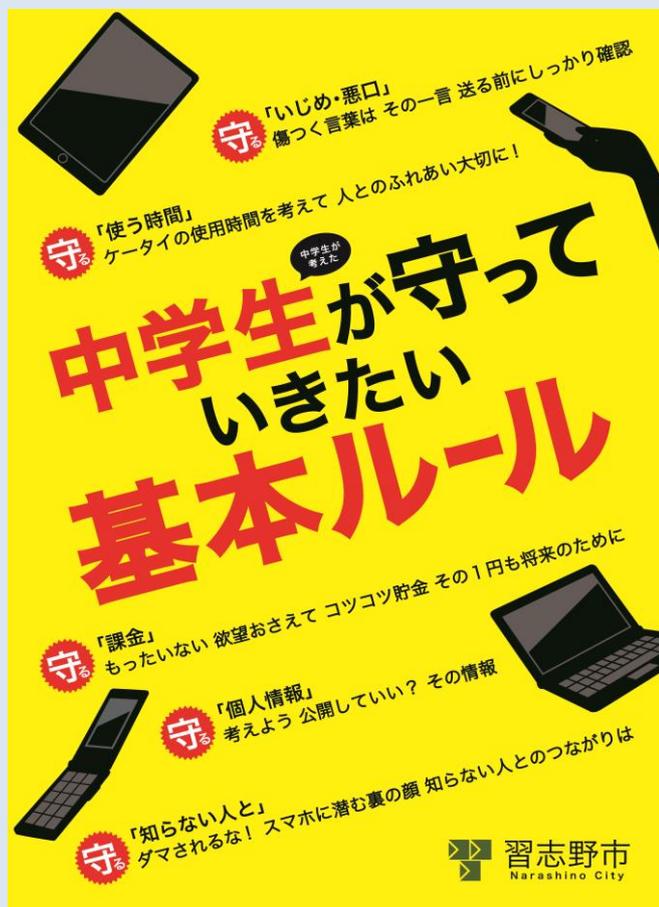
秋津小学校
瀧上 志穂 主事の発表



屋敷小学校 水澤 早苗
学校栄養職員の発表

中学生が
考えた！

中学生が守って いきたい基本ルール



熱心に話し合う向上委員会の生徒達

習志野市中学生ネットモラル向上委員会
第四中学校 錦織 梓

ネットはとても便利ですが、使い方を間違えると大変危険なので、市全体でルールを守り、安全に利用できればと思います。

会議に参加した最初は不安と緊張が大きかったのですが、皆が優しく接してくれたのでとても楽しく有意義な話し合いができました。インターネットでは直接顔を合わせられないけれども、お互いの優しさが伝わるように私達が考えたルールを皆に広めていきたいと思います。

現在、小・中学校をはじめ、市内の関係機関に黄色いポスターが掲示されています。これは、習志野市中学生ネットモラル向上委員会(調整役 千葉県総合教育センター 研究指導主事 村上 恒和 先生、市教委青少年課、市立各中学校からの代表生徒等で構成)によって、話し合わせ、決定したものです。4月20日第1回委員会において井澤 生涯学習部長より「習志野市の中学生に対する調査では8割近くがスマホ等の機器を持ち、ネットにアクセスしているが、トラブルもあると聞いています。皆さんの生の声をもとに、ネット等を使う上で何が問題なのか、そして他の中学生に伝えていかなければいけない事は、何が大切なのか、知恵を出し合い考えていっていただきたいと思います。」とこの委員会の意義が説明されました。

委員達はこの言葉をしっかり受け止め、自分で調べ、各学校の意見を聞き、それを持ち寄って熱心に話し合いを重ねました。このようなルールはとすれば子ども達に対して、大人から推しつけられがちなのかもしれません。しかし、今回のルールは中学生達が自分の考えをもとに考え出したものであること、また市全体の財産になってほしいとの願いが込められています。ポスターは委員達によって、各校で全校集会や教室を回って説明されました。ポスターに込められた思いを共有し、中学生が安全・安心な毎日を過ごしてほしいと願っています。



森の音楽会 盛大に開催

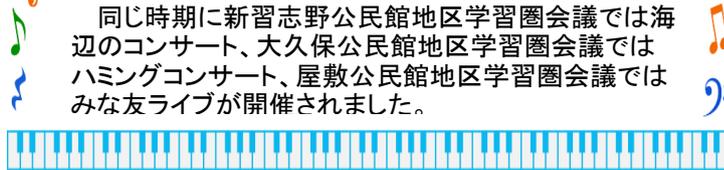
11月25日(土)第19回「森の音楽会」が冬晴れの青空の下、藤崎小体育館にて盛大に開催されました。この会は菊田公民館地区の五中、津田沼小、鷺沼小、藤崎小、藤崎幼稚園、藤崎保育所の子ども達が一堂に会して、年に一度開催されているものです。会場内は立ち見の方も出るほどで、たくさんの人達がこの音楽会を心待ちにしていたことがわかります。



津田沼小学校「恋」



藤崎小学校「藤崎小校歌」



同じ時期に新習志野公民館地区学習圏会議では海辺のコンサート、大久保公民館地区学習圏会議ではハミングコンサート、屋敷公民館地区学習圏会議ではみな友ライブが開催されました。

この音楽会の素晴らしさの1つは上級生が後輩を温かく励ますとともに、後輩が先輩の姿を目の前で見、その姿を学ぶことです。また、中学生指揮・小学生伴奏の習志野市歌も歌われました。保・幼・小・中学校、地域を音楽が1つに結ぶ「森の音楽会」は盛大な拍手に包まれ幕を閉じました。



オリンピック選手を招いたミニ集会

12月5日(火)七中体育館において、2008年北京オリンピック男子400mリレー銅メダリスト高平 慎士 氏を講師に招き、講演会が開催されました。これはオリンピック・パラリンピック教育に取り組む七中学区が授業の一環として行ったものです。会場には七中、秋津小、香澄小、谷津南小の児童・生徒と地域の方・保護者の方が多数参加しました。高平氏から「やりたいことを見つけ、自分を磨くことの大切さ」が語られ、子ども達は熱心に聞き入っていました。「皆さんの夢をサポートしていきたい」という温かな言葉もいただきました。

講演の後に行われた「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」には約100名の地域の方・保護者の方・教職員が「2020年東京オリンピック・パラリンピックの年に選手を受け入れる地域のおもてなし」と題して、グループディスカッションを行いました。おまつり等、子ども達も参加できる、地元でできることを通したまちづくりを考える活発な話し合いを持ちました。



熱く語られた高平氏

習志野高校 ～家庭科の授業の取り組み～

習志野高校では、毎年3年生の選択教科B『家庭科研究』にて、“幼児甚平”の製作と寄贈を行っています。今日の私達の衣生活は、モノに溢れ、いつでも安価で手軽に手に入れることができる環境にあります。このような日常の中で、何をどう選んでいくのかを適切に判断ができる目を養い、技能を身に付けることが本当の豊かさにつながると考えました。そこで、家庭科技術検定の取得を目指している生徒を対象に、身に付けた技能を活用して更に発展的なものづくりを行い、それがボランティア活動の一環も担うことができるよう、地域のボランティア団体と連携を図った授業を実施しています。2011年は、東日本大震災で被災された保育所に、2012～2015年は、ケニア・バングラディッシュ・フィリピンや県内の乳児院に寄贈し、感謝状や心温まるお手紙を頂戴しました。そして、昨年度の2016年は、『波紋の会』と『アライカパ友の会』の地域ボランティア団体の力を借り、今年の8月20日にフィリピンのスラム街に住む子ども達のところへ寄贈することになりました。そして、その寄贈の様子を『アライカパ友の会』代表・加藤信子様他に直接、御講話いただきました。現地での貴重な生の声を聴いて実習への意欲がますますわき、現在、その製作に全力で取り組んでいます。どのような心のこもった“幼児甚平”ができるかとても楽しみです。



3年生選択教科B「家庭科研究」授業の様子



完成した「幼児甚平」

特連の合同宿泊学習 ～友だちたくさんできたかな～

動物とのふれあいマザー牧場



毎年、習志野市の知的特別支援学級の4～6年生で合同宿泊学習を行っております。今年も11月1日（水）～2日（木）の2日間、鹿野山少年自然の家に行きました。この宿泊学習では、「他校の友だちと仲よくなること」と「自然に親しむこと」という大きな目的があります。初日は、マザー牧場に行き、様々な体験をしました。特に、羊やアルパカなどを近くで見たり、触ったりする時間は、とても新鮮で思い出深い時間になりました。また、売店でお土産を買うなどの活動を行い、楽しく過ごしました。2日目のハイキングでは、自分の目や耳で自然を感じ、仲間と力を合わせて山道を歩き、「空気がおいしい。」などの感想をもち、活動に取り組むことができました。普段とは違う場所で、学校生活ではできない活動を通して、子どもたちの笑顔がたくさん見ることができました。担任としても、有意義な時間を過ごすことができたと感じています。今後の子どもたちの成長がたいへん楽しみです。

毎年、習志野市の知的特別支援学級の

4～6年生で合同宿泊学習を行っております。今年も11月1日（水）～2日（木）の2日間、鹿野山少年自然の家に行きました。この宿泊学習では、「他校の友だちと仲よくなること」と「自然に親しむこと」という大きな目的があります。初日は、マザー牧場に行き、様々な体験をしました。特に、羊やアルパカなどを近くで見たり、触ったりする時間は、とても新鮮で思い出深い時間になりました。また、売店でお土産を買うなどの



仲間とともに、ハイキングを楽しみました。

編集後記 皆さんはどのようなお正月を迎えましたか。初詣でどのようなことをお願いしましたか。

ここ数年、メール等で手軽に新年の挨拶を済ませる人が増えてきました。何か味気なさを感じます。昔、自分のクラスの子どもたち全員に手作りの年賀状を送っていた先生がいました。受け取った子どもは何年も宝物のように年賀状を持っていたそうです。日本のよき伝統は大切にしていきたいですね。3学期も頑張りましょう。